

### 緑化研究会 three trees

設立：2002年  
活動日：主に水曜の午後 活動人数：6~7人

大学構内の緑化を目指し、大学本部棟の西側にゴーヤーで「緑のカーテン」を作ったり、季節初めや学校行事の前に花の植え替えを行っています。昨年から大学のISO14001への取り組みにも参加。環境活動がより活発になることを願っています。



### ANSWER

- ① 大学構内だけの活動とはいえ、花壇によって大学を華やかにし、その花を枯らすことのないように育てていくことは大変だということが分かりました。そのため、自然を再帰させるということがどれほど大変なことなのかを考えた上で、活動に取り組んでいます。
- ② 「あの埋立地はあと何年しか使えない」というような急を要する問題がなくなり、今よりも森林がいたずらに減らされていくことのない未来が望ましいと思います。人口が増え続けていく状況、砂漠化が進行している状況では、自然が元に戻るのはかなり難しいと思うからです。



自然を再帰させることの  
難しさを実感しながら活動。

工学部人間情報システム工学科3年  
[活動歴：2年]  
部長 森本 恒さん

### ANSWER

- ① 「環境のために」という肩肘張った活動ばかりでなく、植物などの自然が身近にあることによって、普段から無理なく環境に意識が向いていければな、と考えています。どちらかの活動に偏らないことが大切だと思います。
- ② 意識をしなくても環境に配慮した生活が送れるような生活環境や社会になってほしいです。それにはまず、今の生活の中で自然が身近なものであることを実感し、環境問題について意識することが必要です。そのことで生活が変わり、社会が変わる。その循環が始まれば、意識しなくても環境に配慮された社会になるのではないかと思います。岐阜大学が実施しているISO14001の運動は、環境を意識する活動の一つだと思いますが、学生たちにはあまり浸透していないようです。私たちがこの運動に積極的に参加させてもらうことで、一人でも多くの学生がISO14001を身近に感じ、興味を持ってもらえればいいなと思います。そして社会が変わるきっかけとなってほしいです。

自然を身近に感じることで、  
環境への意識を高めてほしい。



地域科学部地域政策学科2年  
[活動歴：2年]  
次期部長候補 鈴木 麻由さん

3つの研究会のメンバーたちに  
2つの質問を投げかけました。

### QUESTION

- ① あなたの「環境マインド」を教えてください。
- ② 理想とする未来の姿を教えてください。

### 環境サークル・ESDクオリア

設立：2008年  
活動日：月6回程度 活動人数：17人

金華山に残る里山環境の保全にあたっている「達目洞保全活動」に参加するなど、地域やNPOの方々と一緒に環境教育に取り組んでいます。また学校の垣根を越えて、地域の持続可能な発展のために何が出来るかを考えています。

交流を通して、環境問題の  
より良い改善策を探ります。

### ANSWER

- ① まず「このままじゃいけない」という感覚を『持つ』こと。次にその感覚を持った人が他にもいることを『知る』こと。そして「自分たちにはできないことはないだろうか」と解決方法を思索し『実践する』こと。最後に実践したことを省察し、他の実践者と交流をして再発見・再認識をし、「このままじゃいけない」という感覚を『再び持つ』こと。私はこの思考プロセスのサイクルを持つことが非常に重要だと考えます。一度上手く事が運んだとしても、それに捉われて何度も同一の方法を採っているは何も改善されません。より良い手段、方法はないのかと模索することが、地球環境の改善のみならず、自己の研鑽に繋がっていきと考えています。
- ② 「今より少し緑が多い環境の中で、ごく平凡な暮らしをすること」です。「自然に囲まれた生活を楽しむ」ことが、ごく当たり前の感覚として浸透してほしいものです。



教育学部美術教育講座2年  
[活動歴：2年]  
代表 安藤 彰太さん

人も自然の一部。  
守るだけでなく  
共存していきたい。

### ANSWER

- ① 私はESDクオリアに入る以前から、環境保全や自然との共生に関心を持っていました。研究会に入ってから多くの環境活動に参加する機会を得て、実際の現場に出て、その意義や課題に触れ学ぶことができました。それを通して、人も自然の一部であると感じました。それはただ守るのではなく、両者が共存するものということです。私たちは山や川に出かけるだけで好奇心が刺激されたり癒されたりします。そういった存在を後世まで残していけるようにしていきたいです。
- ② 人類が地球の環境に負荷をかけず、その一員として暮らしを送ることができるように、今の生活や社会の仕組みが変化することです。現実的には難しいと思いますが、地球規模で起こっている多くの環境問題の進行を抑えられると考えます。



応用生物科学部生産環境科学課程1年  
[活動歴：1年]  
代表補佐 見屋井 一輝さん

### ツキノワグマ研究会

設立：1989年 活動日：例会/火曜18時～、  
山での調査/土・日曜 活動人数：10人前後

岐阜県本巣市根尾の調査地でツキノワグマによる樹木の剥皮の発生原因を調査しています。週一回の勉強会では、ツキノワグマの生態、人との軋轢の原因と対策について理解を深めています。

### ANSWER

- ① 人が放棄した土地をツキノワグマが利用することで、人とツキノワグマの生活圏が近くなり、軋轢が大きくなっています。一方で、個体群の分断によってツキノワグマが絶滅する地域も出てきています。一言で「クマと人の共存を」と言いますが、この様に場所により置かれている状況も違いますので、共存というものは簡単ではないと考えています。
- ② ツキノワグマの個体数管理が適切に行われ、クマと人との軋轢が減少した未来です。



ツキノワグマと人との  
軋轢がない未来を願っています。

応用生物科学部獣医学課程3年  
[活動歴：3年]  
会長 吉田 侑真さん

